

肝細胞腺腫の高齢犬に ファイア抽出「糖鎖TPG-1」※を与えた一例

※日本獣医ファイア研究会作成のガイドライン基準を満たした犬猫用ファイア製品



症例提供 吉田 進太郎 先生 西川動物病院

症例について

15歳/避妊済み/雑種犬
元気食欲なし、嘔吐を主訴に受診しました。

経過と結果

肝臓腫瘍が検査で発見され、肝臓外側左葉の腫瘍摘出後から再発予防を目的としてファイア糖鎖TPG-1を2倍量にて使用を開始しました。

使用開始から3ヶ月後に3倍量に変更して使用を継続しました。

肝臓数値の低下が認められ、活動性、食欲、呼吸状態、便の性状において体調の良い状態を維持し、ファイア糖鎖TPG-1の効果を実感しました。

飼い主さまからは、「以前から食欲はあったが、ますます食欲が出ています。やや低下していた活動性が回復し正常になった」との実感のお声をいただいています。

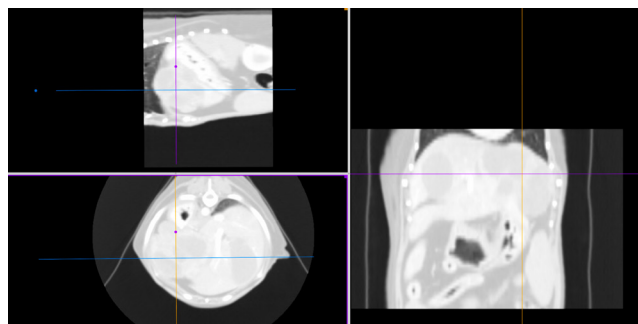
2022年4月11日	主訴: 元気食欲なし、嘔吐
2022年6月3日	肝臓外側左葉の腫瘍を摘出 肝細胞腺腫(病理検査)
2022年6月17日	ファイア糖鎖TPG-1を2倍量で開始
2022年10月3日	ファイア糖鎖TPG-1を3倍量に変更
2023年1月6日	生存

	2022年4月11日	2022年10月3日	2023年1月6日
TP	6.8	7.0	6.2
Alb	3.9	4.1	3.1
GOT	>1000	77	68
GPT	>1000	341	321
ALP		242	234
Glu	126	106	96
BUN	30.4	26.5	20
Cre	0.65	0.8	1.1

考察と感想

再発予防を目的としてファイア糖鎖TPG-1を使用しましたが、特に活動性に改善が見られ、高齢ながらも元気食欲の回復と維持をすることができました。

ファイア糖鎖TPG-1の持つ免疫調整と抗腫瘍作用が腫瘍摘出後の再発予防を補助する可能性があることを示唆していると考えられます。



6月17日

ファイア抽出「糖鎖TPG-1」の投与を開始